

新 吉舎町

まちづくりビジョン 2022



いつまでも どこまでも ずっとずっと続くまち



吉舎町まちづくりビジョン検討委員会

平成18（2006）年 3月策定

平成29（2017）年10月改定

令和 4（2022）年 9月改定

吉舎町自治振興連合会

新 吉舎町まちづくりビジョン

目次	1
1 吉舎町まちづくりビジョン策定の趣旨	2
2 吉舎町の地域分析・調査の概要（提言）	2
3 人口ビジョン（重点目標）	4
4 まちづくりビジョンの構成	5
5 新「吉舎町まちづくりビジョン」の推進について	6
6 新「吉舎町まちづくりビジョン」の基本方針	7
7 「きさ子ども夢未来プラン」の概要	8
8 吉舎町のまちづくり組織・団体の構成	9
9 まちづくりメッセージ	10
（添付資料） 新 吉舎町まちづくりビジョン概要版	



吉舎町の夏の風物詩「吉舎ふれあい祭り」

～夜空彩る 3000 発の花火と手作り灯ろうが幻想的な大イベント～

表紙のイメージキャラクター（左）吉舎中学生考案 山野芋子 （右）吉舎小児童考案 はんさむコロツケ

1 吉舎町まちづくりビジョン策定の趣旨

長い歴史によって培われた吉舎町特有の文化や風土は、町民の心の底に流れ続けています。こうした多彩な気風を生かしながら、「吉舎町民であることに誇りと喜びを感じるまち」を創るため、町民と行政の協働により、町全域を視野に入れた共通の目標に向かって取り組んで行く「未来像」として策定するものが「吉舎町まちづくりビジョン」です。

今次、改定年を迎え、自治体や関係機関・住民自治組織からなる「吉舎町まちづくりビジョン検討委員会」を設置し、新たなビジョン構想に着手しました。具体施策の検討は、現行ビジョンの成果と課題について「まちづくり検証委員会」の評価を経て、高校生をはじめとする広範囲な町民の参画による「まちづくりワークショップ」を開催するとともに学校の協力を得て実施した、小中学生の「まちづくりアンケート調査」など、次代を担う子どもたちの思いや願いを反映した、新「吉舎町まちづくりビジョン」を策定しました。

2 吉舎町の地域分析・調査の概要(提言)

令和元(2019)年から3年間、三次市全域を対象とした「地域人材育成・派遣事業に伴う地域分析・調査委託事業(一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所)」の調査結果に基づき、吉舎町の人口予測やまちづくりの方向性等について、「吉舎町まちづくりビジョン検討委員会」において検討・協議を行い、提言内容を基に「人口ビジョン」を重点目標とした、新たなまちづくりの方向性を示すこととしました。

(1)まちづくりの課題

- ① 近年人口減少、高齢化が進み、コミュニティ運営に関しては、今後、自治振興会ごとの活動において困難になります。また、吉舎町として自治振興会同士が連携したまちづくりを進める仕組みが、十分に形成されていないなどの課題があります。
- ② 人口減少の特徴として、ほとんどの世代で流出超過となっています。20歳代・30歳代の子育て世代の流出は、今後の少子化を招きます。また50歳代後半までの流出超過の傾向が続くことは、人口の減少に拍車をかけます。20歳代を中心とした若年層の流出率の抑制と20歳代・30歳代のU・Iターンの上乗せが同時に進むことが理想となります。



八幡辻ヒガンバナ群生地

(2) 吉舎町の可能性

- ① 吉舎町は、高速ICが地区内にあり利便性の良い地域ですが、地域のエリアが特に広く、各自治振興会にまちづくりの重心があり、それぞれの地域の特色を活かした振興策が展開され、独自の資源や人材も多彩です。
- ② 町内に2保育所、2小学校、1中学校、1高校があり、教育機関が充実していることから、教育連携を柱としたまちづくりに期待が持てます。吉舎らしい暮らしの打ち出し（高校を生かした「学びの郷づくり」など）により、特色づくりが可能で、地域の文化・雰囲気も吉舎町のカラーを打ち出しやすい特長があります。
- ③ 吉舎町は、歴史と伝統のある日彰館高等学校があり、高校生人口の上乗せや高校生を巻き込んだまちづくりの可能性のある地域です。さらに、移住者が定住しやすい地域環境であり、移住ネットワーク活動や各自治振興会の受入体制の整備などを進め、子育て世代を中心とした移住者を呼び込む戦略的な定住対策を行うことで、人口減少の抑制の可能性があります。
- ④ 吉舎町として人口減少が課題ですが、近年、移住・定住者が増加傾向にあり、流出超過に減少傾向が見られることは明るい兆しです。今後、地区ごとの定住の窓口や仕組みづくりをさらに進めることが求められます。

(3) まちづくりへの提言

- ① 三次市のコミュニティづくりの成果として、行政の財政支援により、各地区の拠点施設が整備され、常駐スタッフが配置されています。運営は、吉舎町自治振興連合会を中心に、各自治振興会と各分野の組織・団体が連携した活動が展開されており、今後、企業や商工会等との横断的連携等による地域活性化とともに、次世代に向けた地域人材運営と地域経営会社等の育成が期待されます。
- ② 全体的には、女性の参画が少ない傾向があり、女性をターゲットとしたイベントや講習、役員構成により、女性が生き活きと活躍できるポジションづくりが必要です。また、拠点施設が完成し、拠点機能を活かしたイベントや情報交流会が開催されていますが、町民やあらゆる機関・団体と連携した、情報共有できる仕組みづくりが必要となります。



吉舎中学校・日彰館高校吹奏楽部の合同演奏
(よっしゃ吉舎ホール)

3 人口ビジョン（重点目標）

吉舎町においては、少子高齢化や自然減・社会減にともなう人口減少が急速に進み、減少率は市内 19 自治組織の中でも突出しています。このことから調査・研究でも明らかになったように「人口ビジョン」をまちづくりの重点目標として取り組む必要があります。

（1）「人口ビジョン」とは

人口ビジョンとは、過去5年間の推移が、今後も続いた場合の将来人口を予測するものです。現状推移では、10年後の人口は、23.1%減少しますが、最適条件（最適シナリオ）で推移すると、4.2%に留めることができます。将来的には、自然減（出生・死亡）や社会減（転入・転出）による人口動態のバランスが必要となります。

吉舎町の人口予測					
『地域人材育成・派遣事業に伴う地域分析・調査（R元～3年） 一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所』					
■ 人口ビジョン（最適シナリオ）					
	2020年	2030年	2050年	2065年	
現状推移	人口総数(人)	3,636	2,796	1,424	784
	減少率(%)		-23.1	-60.8	-78.4
	高齢化率(%)	46.9	52.7	63.3	68.6
	小学生数(人)	137	67(-51.0%)	24	9
	30代女性数(人)	117	56(-52.1%)	21	9
最適条件	2020年	2030年	2050年	2065年	
	人口総数(人)	3,636	3,481(-4.2%)	3,292	3,318
	高齢化率(%)	46.9	44.5	36.9	30.6
	(シナリオ条件) ※出生率・10代後半の流出率の改善、3世代バランスの取れた人口定住の増加 ・10代後半流出率(2004年～2019年) (男性)14.8% (女性)35.1% ⇒ (男性)15% (女性)15% ・合計特殊出生率 1.21 ⇒ 2.07(三次市の目標出生率2.07) ・毎年定住増加組数 7.5組 ・1000人当たりの必要人数 14.4人				

（2）「人口ビジョン」による人口減少対策

吉舎町の課題は定住対策です。人口ビジョンの最適条件を実現するため、「教育と文化・定住・人材育成を基軸とした人口減少対策」に取り組めます。その内容は、第一に、保育所、小中学校、高校が揃う教育・文化環境を活かし「吉舎で学びたい、学ばせたい」と信頼されるまちづくり。第二に、IターンやUターン者の移住支援などを通して「住みたい、住み続けたい」と思えるような定住が進むまちづくり。第三に、次代を担う人材育成や女性の活躍の場づくりなどを通して、「吉舎が好き」と応援されるまちづくりです。

4 まちづくりビジョンの構成

スローガン

いつまでも どこまでも ずっとずっと続く まち

基本目標（将来像）

「教育の郷・定住の郷・共創の郷」づくりを通して
誰もが幸せを実感できる持続可能なまちづくり

人口ビジョン（重点目標） 教育と文化・定住・人材育成を基軸とした人口減少対策

- 保育所・小中学校・高校が揃う教育・文化環境を活かし、「吉舎で学びたい、学ばせたい」と信頼される まちづくり
- IターンやUターンの移住支援などを通して、「住みたい、住み続けたい」と思えるような定住が進む まちづくり
- 次代を担う人材育成や女性の活躍の場づくりなどを通して、「吉舎が好き」と応援される まちづくり

まちづくり施策 拠点を活かし 地域力高まる 3つの郷づくり

基本方針

教育と文化の薫る 教育の郷

基本施策 1

学校との協働による教育環境づくり

- 温故創新のまちづくり
- 育ちを見守る教育環境づくり

基本施策 2

学びを支え、新たな文化の創造

- 新しい吉舎の文化を創る
- 自主的な学びを支える

基本施策 3

担い手や後継者の人材育成

- 担い手や地域リーダーの育成
- 地域活動や交流の支援

基本方針

暮らしを支える 定住の郷

基本施策 1

人口ビジョンに基づく定住促進

- 住み続けたいまち
- 帰ってみたいまち
- 暮らしてみたいまち

基本施策 2

好きな吉舎を守ろう

- 福祉で見守る・交流でつながる
- 暮らしやすい地域環境づくり

基本施策 3

防犯・防災拠点機能の強化

- 安心・安全なまちをみんなで守る
- 地域の相互扶助

基本方針

享受から行動へ 共創の郷

基本施策 1

歴史・伝統・文化の継承と保全

- 伝統文化の継承と担い手の育成
- 史跡の整備・保全

基本施策 2

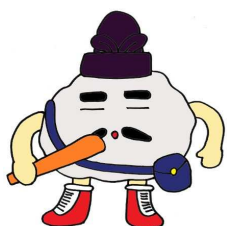
観光資源の活用と賑わいづくり

- 積極的な情報ツールの活用
- 拠点施設活用による賑わいづくり

基本施策 3

環境保全や希少動植物の保護活動

- 豊かな自然や里山・里地の保全
- 山野草や希少動植物の保護活動



私たちが描く まちの未来へ！

きさ子ども夢未来プラン

（小中学生のアンケート調査より）

「元気なまちづくり」への願い

（中学生の意見上位項目）

5 新「吉舎町まちづくりビジョン」の推進について

新たなビジョンづくりにおいては、『これからもどこまでもずっとずっと続くまち』をスローガンに、「教育の郷・定住の郷・共創の郷」づくりを通して、町民一人ひとりが幸せを実感できる「持続可能なまちづくり」を基本目標に施策を推進します。また、新たに吉舎町の課題を踏まえた「人口ビジョン」を重点目標に掲げ、「教育と文化・定住・人材育成を基軸とした人口減少対策」に取り組むこととしました。施策の推進に当たっては、子どもたちの思いや願いをまとめた「きさ子ども夢未来プラン」を反映することとし、次代を担う子どもたちの描くまちの未来を創造に繋がります。

(1) 連携・協働によるまちづくり

まちづくりビジョンの推進は、吉舎町自治振興連合会が中心となって、町内6地域の自治振興会の主体性・自発性を尊重しながらコーディネートし、まちづくりに関わる住民や関係組織・団体及び三次市が連携・協働して実施します。「吉舎町まちづくりビジョン検討委員会」は、三次市吉舎支所の支援及び助言を得て、定期的に進捗状況を検証し、時代や社会の変化に応じた、まちづくり施策へのニーズを踏まえ、新たな施策も視野に、令和9（2027）年を目途に、まちづくりビジョンの見直しを行う計画です。

(2) 拠点施設「よっしゃ吉舎」誕生を契機に

吉舎町においては、令和2（2020）年11月に、念願の拠点施設「よっしゃ吉舎」が完成しました。新たに誕生したコミュニティの拠点となる複合施設の利点を生かした関係機関や団体・自治組織の横断的連携、防災拠点としての役割やホール・広場を活用した魅力あるイベントの開催など、地区内外の交流活動の充実を図ります。

(3) まちづくりの機運を醸成

吉舎町自治振興連合会は、地域コミュニティ活動において、「まちづくりビジョン」の具体施策の推進を図るため、住民自治の理念である「自分たちのまちは、自分たちで創る」気概のもと、各自治振興会の特色づくりと拠点機能の強化により、町民の皆さんが幸せを実感できる「持続可能なまちづくり」の機運の醸成に努めます。



拠点施設 よっしゃ吉舎

6 新「吉舎町まちづくりビジョン」の基本方針

まちづくり施策の推進に当たっては、「拠点を活かし地域力高まる3つの郷づくり（教育の郷・定住の郷・共創の郷）」を基本方針とし、それぞれの基本施策・実施方針に基づき、具体的な活動計画を推進します。施策構想については、「基本施策（概要版）」に取りまとめました。

【基本方針】 教育と文化の薫る「教育の郷」

吉舎町は、保育所、小・中学校、高校が揃う地域で教育環境の良さが特長です。日彰館高等学校の振興・支援など、学校と地域が協働して、教育と文化の薫る「教育の郷」づくりを進めます。町民の自主的な学び「生涯学習」の推進においては、引き続き「楽生塾」の活動や吉舎図書館、美術館あーとあい・きさ、歴史民俗資料館等の文化・芸術振興により、新たな文化を創出していきます。また、次代を担う子どもたちや若い世代を対象とした交流機会や女性の活躍の場づくりなどを通して人材育成に努めます。

【基本方針】 暮らしを支える「定住の郷」

人口減少が進む吉舎町の重要課題は定住対策です。基本方針に基づき、暮らしを支える「定住の郷」づくりを進めます。吉舎保健センターの活用をはじめ、社会福祉協議会、民生委員児童委員との連携・協働により、子どもや高齢者、障がいのある方、一人暮らしの方などの見守り活動を通して、地域共生社会の実現を目指します。また、近年、大規模な自然災害や感染症の蔓延、農林業における獣害被害など、暮らしに直結する様々な問題が暮らしを脅かしています。地域においても防犯・防火に関して警察・消防署との連携や地域での啓発・情報共有をはじめ、災害時の避難行動要支援者の避難支援などを通して、安心・安全なまちづくりを進めます。

【基本方針】 享受から行動へ「共創の郷」

吉舎町の歴史・伝統・文化を継承するため、担い手や後継者の育成を図り、史跡や文化財等の整備・保全に努めます。吉舎町の一大イベントである「吉舎ふれあい祭り」の開催をはじめ、観光拠点「Xa104」や「とみしの里」などをアンテナ基地とした情報発信により「吉舎町に行ってみたい」と思えるような、魅力発信と賑わいづくりを進めるとともに、豊かな自然環境を守り、希少生物の保護活動等を通して、河川・山林・里山の環境整備に努めます。さらに、環境サポーターの養成やボランティア活動の推進など、関係機関・団体との連携・協働による「共創の郷」づくりを進めます。

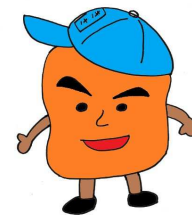
7 「きさ子ども夢未来プラン」の概要

次代を担う子どもたちの思いや願いを、吉舎町まちづくりビジョンに反映するため、各学校の協力を得て、吉舎小学校と八幡小学校の5・6年生及び吉舎中学校全生徒を対象に「まちづくりアンケート調査」を実施しました。まちの現在と将来をイメージし、「こんなまちになったらいいな」をテーマに、吉舎町の良いところ、吉舎町の宝だと思うこと、学校と地域が協力してできることなどについて自由記述としました。アンケート調査の共通項目「こんなまちになったらいいな」への意見やアイデアを、「きさ子ども夢未来プラン」としてとりまとめ、吉舎町まちづくりビジョンに盛り込みました。小・中学生のみなさんが描くまちの未来に向けて、大きな夢や希望をまちづくりに活かします。

きさ子ども夢未来プラン

～私たちが描くまちの未来へ！「こんなまちになったらいいな」の願い

- 豊かな自然や多様な生物を守る まち
- ゴミのない花いっぱい美しい まち
- 学校と地域の交流で元気な まち
- 誰が来ても良かったと思える まち



【 `元気なまちづくり、への願い（中学生の意見上位項目）】

- ☆ 買物がしやすいお店など生活環境の充実
- ☆ イベントやボランティア活動などへの積極的な参加
- ☆ 吉舎を訪れる人を増やす観光振興
- ☆ 自然環境の保全や希少生物の保護
- ☆ 働く場所を選択できるまちづくり

(参考) まちづくりアンケート調査について

令和4（2022）年6月に、吉舎小学校と八幡小学校の5・6年生、吉舎中学校全生徒の協力を得て「まちづくりアンケート調査」を実施しました。小中学生共通の質問として、①あなたにとって吉舎町の良いところは何ですか②吉舎町の悪いところは何ですか③吉舎町の宝だと思うことは何ですか④あなたが住んでいる地域で自慢できることは何ですか⑤学校と地域で協力して出来ることややってみたいことは何ですか⑥「こんなまちになったらいいな」の6項目に回答してもらいました。「こんなまちになったらいいな」の意見を含め、回答が多かった分野の上位項目をプランとしてまとめました。中学生への調査「吉舎町がもっと元気づく将来の分野は？」の質問については、上位項目を「元気なまちを創るための意見」としてまとめました。また、「こんなまちになったらいいな」の記述から、小学生の考えた『いつまでも どこまでも ずっとずっと続くまち』を、まちづくりワークショップでの投票の結果、新「吉舎町まちづくりビジョン」のスローガンに採用しました。

8 吉舎町のまちづくり組織・団体の構成



9 まちづくりメッセージ

新「吉舎町まちづくりビジョン」策定に当たり、町民・関係者が一丸となってまちづくりを進めていくため「まちづくりメッセージ」を起草し、新しいビジョンの公表とします。

1 教育と文化の薫るまちづくり

吉舎町は、芸術・文化施設が整備され、保育所、小中学校、高校が揃うなど、教育のまちづくりの土台があります。保育所・学校と地域が連携・協働し、子育て支援や教育環境づくりなどの取り組みを通して「吉舎で子育てがしたい、学ばせたい、学んで良かった」と誇れる地域となるよう、教育と文化の薫るまちづくりを進めていきましょう。

2 享受から行動へ

近年、平和・環境に関する問題をはじめ、気候変動などによる自然災害の発生や感染症拡大など将来への不安を抱く人も多くいます。国連が採択した国際目標SDGs（持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための目標）に関心を持ち「こうしたらもっと地域が良くなる」といった思いや行動を大切に、持続可能な未来へのまちづくりのため、共に学び合い、私たちの身の回りの出来ることから実践していきましょう。

3 繋がりを大切に

移住して吉舎町に住みたい、故郷に戻って来たい人が増えています。空き家情報バンク登録の促進や空き家の利活用、地域の受入体制の整備などを通して定住促進を図り、移住を希望する人に選ばれるまちになるよう、また、このまちに縁のある「関係人口」の拡大とともに、繋がりを大切にしたまちづくりを進めていきましょう。

4 地域の個性や特長を生かす

吉舎・安田・中四字・敷地・八幡・徳市の6自治振興会は、地域の自然環境や伝統など、個性と特長を生かしながら独自の文化を形成して来ました。それぞれの地域活動も多彩で、住民の交流の場としてその機能や役割を果たしています。今後も、吉舎町自治振興連合組織を中心に相互の交流を進めるとともに、互いに補完し合いながら新「吉舎町まちづくりビジョン」に示された活動を各地域から展開していきましょう。

令和4年（2022年）9月1日
吉舎町まちづくりビジョン検討委員会

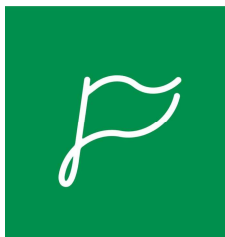


SDGsとは・・・2015年国連が採択（持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標を設定）【①貧困②飢餓③保健④教育⑤ジェンダー⑥水・衛生⑦エネルギー⑧成長・雇用⑨イノベーション⑩不平等⑪都市⑫生産・消費⑬気候変動⑭海洋資源⑮陸上資源⑯平和⑰実施手段】



吉舎町の由来

日本書紀によると6世紀後半、全国に（きさいべ＝皇后の所領）を置いたとあり、これが町名の起こりと思われます。吉舎村国郡志書上帳には、承久の乱に破れた、後鳥羽上皇が隠岐島流配の途中、良神社で一泊し「吉（よ）き舎（やど）りかな」といわれたことから吉舎の地名になったという伝説があります。



編集・発行 吉舎町自治振興連合会事務局

〒729-4211 三次市吉舎町吉舎 371 番地

TEL : 0824-43-7272 FAX : 0824-43-3444

ホームページ <http://kisajichi.com/>



HP : QR コード